

「一杯の愛のお米プロジェクト」中間報告

2020年5月22日

4月9日から行っている「一杯の愛のお米プロジェクト」は、在日の困っている外国人へ基本的な食料を送るという目的を持って立ち上げました。このプロジェクトを始めてから7週間が経ちました。当初、1箇所（川口教会）だけで支援活動を行なっていましたが、3週間前からは、名古屋と下関、大阪でも支援活動を行なっています。毎週、この4箇所で、約600人分の食料を準備して送っています。

「寄付をどうやって集めるのか」とよく質問されます。当初、在日のベトナム人のカトリック共同体の中で寄付を呼びかけました。しかし、申請してきた人数を見ると、ベトナム人のカトリック共同体だけでは力が足りないと感じ、5月2日から、イエズス会社会司牧センターを通して寄付を呼びかけるようになりました。そして、社会司牧センターの責任者やスタッフの協力を得て、いろいろな団体から食料をもらえるようになりました。その後、麴町聖イグナチオ教会の主任司祭である英隆一朗神父（イエズス会）や浅草教会・上野教会の主任司祭である晴佐久昌英神父（東京教区）を通して、日本人のカトリック共同体でも寄付を呼びかけるようになりました。このようにして、最近多くの日本人の方々から寄付を頂いています。



皆さんのおかげで、この7週間で、約2,600人分の食料を人々へ届けることができました。そして、申請してきて、食料の到着を待ってもらっている人々は今でも約600人います。最初は、ほぼベトナム人からだけでしたが、現在では、他のアジアの人々からも申請が多く届いています。

この支援活動はいつまで続くのか、まだまだ終わりが見えていない状態です。「緊急事態宣言」が解除されても、すぐには普通の生活に戻ることができないと考えています。おそらく、6月下旬まで続ける可能性が高いです。これからも皆様のご協力とお祈りを求め続けたいと思います。

どうぞ、宜しくお願い致します。

イエズス会社会司牧センター
ヨセフ・グエン・タン・ニャーSJ